



今月のいいね

■メンバー

代表 大杉智恵子^{ちえこ}さん 北海道悦子^{えつこ}さん 折手芳子^{よしこ}さん

土田たけみ^{たけみ}さん 村岡輝子^{てるこ}さん 城地喜代子^{きよこ}さん

60代から90代の主婦の方で構成。編み物歴は長い方で50年のキャリア、1つの作品を2日ほどで編み上げます。これまでの寄付額は200万円を超えます。



大杉代表

歌笛手作り友の会のメンバー

三石歌笛の大杉智恵子さんが中心となり友人らとともに平成21年に設立。手袋や靴下、帽子などを手編みし、町内温泉施設などで販売。その売上金をアフリカ友の会に毎年寄付されています。

■設立のきっかけ

近所の主婦友達を招いて、おしゃべりと編み物を楽しむのが日課だった大杉智恵子さんが、平成21年に町内の同じ書道教室に通っていたアフリカ友の会(特定非営利活動法人NPO・NGOアフリカ友の会)静内支所代表の加地明子^{あきこ}さん(静内吉野町)から「アフリカのエイズ患者への治療や貧困層への食料支援など、自立支援に役立つため、編み物を作ってほしい」と話があり、「私で役に立つなら」と快く引き受けたことがきっかけです。現在、友達とともに6人で活動しています。

■主な活動内容

●「みついし昆布温泉 蔵三」での販売

「蔵三」で手編み品の常設販売を行っています。令和元年12月ころ、会の取り組みを知った「蔵三」の田村総支配人から連絡をいただき、店内の一角にコーナーを設置して翌月の1月から販売を始めました。靴下や手袋、帽子など、丁寧に編み込んだ品を1つ50円から4,000円ほどで販売し、毎月1回、品物を総入れ替えして常に新しい物を陳列しています。特に靴下は、牧場で働く方や漁師の方などに「暖かくてとてもいい」と好評です。手編み品の売り上げは、これまでの2年間で465点が売れ、1か月当たり平均約2万円です。売上金はアフリカ友の会に寄付しています。

暖かい靴下が人気です!



みついし 昆布温泉 蔵三販売 コーナー

●チャリティーバザーの開催

アフリカ友の会静内支所と連携し、毎年12月にピュアでチャリティーバザーを開き、売上金をアフリカ友の会のほか、今回は町内の子どもたちへの医療費支援として町に寄付しました。

「蔵三」での販売に力を注ぐこととし、13回目を迎えた昨年でバザーは最後の開催としましたが、2日間の開催で17万円の売り上げがあり、毎年、楽しみにしてくれている町内の方や、平取、えりもなどの遠方からも多くの方が訪れてくれたことに感謝しています。

■今後について

メンバーとおしゃべりや編み物などを楽しみながら、できるだけ継続していきたいです。



特定非営利活動法人NPO・NGOアフリカ友の会代表 徳永 瑞子^{みずこ}さん(東京都)

歌笛手作り友の会の活動に対して全国から余り毛糸をいただき、こうして編んでくださる方たちがいて初めて売り物になり、このたびは収益金をアフリカの子どもたちばかりではなく、地元の子もたちへ医療費として寄付できた、と聞き大変うれしく思っております。

アフリカ友の会は、エイズ患者のためにアフリカで診療所を建てたことから始まりました。アフリカではエイズによって親が亡くなり子どもにも遺伝しています。これからも支援が必要なため、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

<https://www.amisdafrique.com/>



現地支援センターに栄養失調の妹を連れてくる幼い姉